

～「新人や派遣社員がすぐ辞めてしまう」「職場が暗い…」
「若手が育たない」「働いていて楽しくない」を自力で解決～

「働きがい」最大化活動による 職場風土活性化方法

～従業員が「やりたい」活動が、職場風土を劇的に変える～

【受講対象者】職場風土に悩む経営者、総務(人事・管理)部課長、労働組合執行部
派遣社員が定着せずお困りの部課長(部署不問)、ボトムアップ活動事務局
業務改革および働き方改革推進部署の部課長、業務改革活動事務局、

【受講のおすすめ】

いま多くの企業で人員流出や採用難が深刻化し、派遣社員も定着しない、そんな悲鳴を耳にします。職場に元気がなく、組織の雰囲気がどんどん重たくなる。こうした現象は偶然ではなく、組織の弱体化が内部で進行しているサインです。放置すれば職場風土は確実に悪化し、生産性も業績も下り坂となります。

そうなった原因は従業員がやる気を失ったからではありません。ほんの少し仕組みを変えるだけで、職場は驚くほど明るく、前向きに変わります。それは従業員へ「やれ」と指示するのではなく、従業員が自ら「やりたい」と感じて動き出す状態をつくることです。この力が生まれた職場は、驚くほど速く活力を取り戻します。本セミナーでは、まず職場風土が活力を失った本当の原因を明らかにし、日本人特有の特性や価値観、中途採用者・派遣社員が持つ視点をどう活かせば、組織が再び活性化するのかを解説します。

次に、職場が自走し始める条件である①自己啓発が促進される環境 ②「もっとよくしたい」が連鎖する風土 ③挑戦した人がきちんと報われる仕組み、をどのように整えればいいのか、実例をまじえながら紹介します。どれも表面的なテクニックではなく、職場の内側から活力を取り戻すための根本的な方法です。実践すれば、活力を失っていた組織が再び元気を取り戻し、人が辞めず、改善が自然に促進される状態へと変わっていきます。

講師の前職では、これまで「働きがい」に配慮されることのなかった派遣社員・構内請負業者・パート社員・シルバー人材の方々の間で、改善報告活動が一大ブームを巻き起こしました。この事例からもわかる通り、職場が変わるきっかけは働きがいの復活です。あなたの組織に眠る力を解き放ち、「辞めない・育つ・成果が出る」職場へ。本セミナーでは、それを実現する改善報告活動のすべてを、講師の実体験を通して実践的にお教えいたします。「な～んだ、改善提案のセミナーか、古臭いなあ…」と思った方は、セミナーでご紹介する職場活性化事例を、ご自身の目で確認してからご判断ください。AIやDXでは絶対できない費用対効果抜群のこの活動を知らないと、大損することにあなたは気づくことでしょう。

【講師】

(株)トータルマネジメントシステム研究所 代表取締役 角川 真也 (つのかわ まさや)

中堅部材メーカーにおいて社内コンサルとして数々のボトムアップ活動を立ち上げ、職場風土改善、従業員定着率・モチベーション・労働生産性の向上、経費削減、労働災害減少等々の成果を上げ、会社経営に大きく寄与する。従業員の「働きやすさ」「働き甲斐」向上に特化したこれらの活動は『組織マネジメントシステム』自社構築を指導する際の「やらされ感」撲滅に貢献し、弊社のコンサル成功率 100%の陰の立役者となる。『工場管理 11~3 月号』(日刊工業新聞社)誌上にて『労働生産性向上による人手不足解決方法』の特別記事を寄稿。セミナー開催実績 104 回/13 年、受講者累計 1,102 名、受講者評価 平均 83.8 点

【プログラム】

1. 職場風土が暗い理由とその活性化方法

- 1) 職場風土が沈静化した理由
- 2) 日本人の特長とその活用方法
- 3) 中途採用者・派遣社員は「宝の山」

2. 改善「提案」活動はもう古い!!

- 1) 改善提案活動はなぜ沈静化したか?
- 2) どうすれば活性化できるのか?

3. 改善「報告」活動の目的および概要

- 1) 改善報告活動の目的および改善報告シートの書式
- 2) 改善効果の金額換算方法
- 3) 改善報告シート記入方法(演習)
- 4) 事務局コメントの書き方について(演習)

4. 改善手法教育

- 1) 教育を「強要」しても人財は育たない
- 2) 自己啓発を「促進」するシステム・ツールとは?

5. 改善報告活動の活性化

- 1) 事務局のやるべきこと
- 2) 改善実施者の表彰および待遇

6. 改善報告活動による会社業績向上方法

- 1) 改善効果の最大化(事例横展開)
- 2) 小集団活動と改善報告活動
- 3) 職場風土活性化事例紹介

7. 質疑応答・個別アドバイス

【過去の受講者アンケートより】

- ・セミナーで習ったことをもとに、会社に改善提案制度改革を提案していきたい。
- ・実例に基づく説明で、共感を得ながら理解することが出来ました。また改善効果を金額に換算する方法を、しっかり教えていただきました。
- ・講師の実績をベースとした資料と講義で、とても身近な感じであった。
- ・今回のセミナーで、会社は同じことをしていってはダメで、日々改善していくないと10～20年後は存在しないとの危機感を持ちました。
- ・「やらないといけない」という強い気持ちになりました。ただ全てがすんなり自社に取り入れられる訳ではないので、まずは賞金制度づくりから始めます。結構プレッシャーになりそうです。
- ・他の改善提案事務局員にも聞かせたかったです。
- ・わかりやすい内容であった。身につまされる話もあった。
- ・講師の実体験に重みがある。
- ・非常にユーモアのある講義で、始終楽しく受講できました。